

ブリジット・ライリー略年譜

- 1931** ロンドンに生まれる。
- 1939-45** 父の軍役中、母、姉妹、叔母とともにコーンウォールに住む。同地にて自然への興味をもつ。
- 1946-48** チェルトナム・レディーズ・カレッジで美術の授業のみ受講することを許される。
- 1949-52** ロンドン芸術大学ゴールドスミス・カレッジで平面に人体を写し取る絵画的構成の基本を学ぶ。
- 1952-55** ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの油絵学科に学ぶ。「何を描くか、どのように描くか」苦悩する。
- 1956-58** 交通事故にあった父の介護をする。眼鏡店で働き、子供に教え、広告代理店にイラストレーターとして就職。58年、ホワイトチャペル・アート・ギャラリーでジャクソン・ポロック展に衝撃をうける。
- 1959** 後に友人で助言者となるモリス・ド・ソスマレに出会い、未来派と分割主義に興味をもち、クレヤやカンディンスキーの著作にも親しむ。
- 1960** 独自のスタイルで描き始める。ヴェネツィア・ビエンナーレで未来派の展覧会を見る。秋ド・ソスマレと離別し、精神的にも創作的にも危機に直面する。最初の白と黒の絵画を制作。
- 1961-64** 白と黒の絵画を精力的に制作。62年春、ギャラリー・ワン（ロンドン）で初の個展。
- 1965** 「レスポンシヴ・アイ（応答する眼）」（ニューヨーク近代美術館）に出品。個展（リチャード・フェーガン画廊）では開始前に作品が完売し、一躍美術界のスターとなる。
- 1965-67** 作品にトーンの異なる灰色を導入。67年夏ギリシアを訪れたのち、作品に色彩を導入し、評価が高まる。
- 1968** 第34回ヴェネツィア・ビエンナーレで絵画部門国際賞を受賞。ピーター・セッジリーと「SPACE」設立。
- 1974-77** 波線を用いた作品を手がける。77年京都・奈良の社寺訪問、大阪で尾形光琳の波の図案帳を調査。
- 1978-80** アメリカ、オーストラリア、日本（東京国立近代美術館）を巡回する回顧展。シドニー会場訪問に合わせてグレート・バリア・リーフ、ウルル（エアーズ・ロック）を訪れる。東京への往路、バリ島でバロン劇の踊り、ジャワ島でポロブドゥール遺跡の極彩色に魅了される。エジプトで古代美術や遺物にみられる配色法に驚く。
- 1981-85** エジプト風の色調で作品制作。色彩の強度が上がり、ストライプの様式に移行。南インドの寺院を訪れる。83年ロイヤル・リヴァプール大学病院の壁画完成。同年、ランベール・バレエ団がライリーの作品を前に踊る。
- 1986-91** 縦方向のストライプと決別し、斜線を用いた形式を採用する。
- 1994** テート・ギャラリーのコレクション展示で注目が集まり、BBCラジオが5回連続ライリー特集を組む。
- 1997** 菱形構図に湾曲のモチーフを導入。
- 2000** ノーマン・フォスター設計のシティバンク本社ビルにインスタレーション作品を設置。
- 2003** テート・ブリテンが大規模な回顧展を開催し、国際的に評価される。
- 2006-07** 色紙を使った習作の過程で、白い壁を横長の画面として使用する方法を見出し、壁画制作に行きつく。
- 2008** 過去最大の回顧展がパリ市立近代美術館で開催される。
- 2014** 1月ジューゲンの現代美術館のロビーにウォール・ペインティングが恒久展示。
- 現在は自宅のあるロンドンのほか、コーンウォール、南仏のヴォークリューズにも拠点を持ち、制作している。